HOKKAIDO UNIVERSITY

Title	特殊講義案 ： 都市と村落 Ⅱ(1)
Author(s)	鈴木, 栄太郎
Description	資料作成年不明（システムの制約のため、発行日には没年を入力した）
Issue Date	1966
Doc URL	https://hdl.handle.net/2115/77379
Type	manuscript
File Information	N027_013536.pdf

Hokkaido University Collection of Scholarly and Academic Papers : HUSCAP

NOTE BOOK

社会誌学

学部三、四年

東洋大学

昭和三十五年度

第二巻

附 昭和三十六年度集中講義
(86.11.17)

中論 4

民訓の合理部落と村の考察

地区や学区など地区は全く比較にならぬ程異なってゐる。かくては本の学校は自然村を単位として学区なされてゐるとは言ひ得ない。

然し二の自然村は明治以来と共に弱体化し村は我が行はれた頃、多少の合理化、民主化と共に立派にかけよ仕人を養成、自治を養成、合理主義の学風に伴って急激に変貌しつゝある事は見のがす事は出来ぬ。

然しその変化の激甚さはおよそ色々異ってゐる。現我をなの農地改革によって芝むし

地区や矛盾ある地区は全く比較
にならぬ程差てある。かくては
本の中なる沖縄は自然科を学位
として学ばれずみると見てもよ
ではない。
然しこの自然科は明治以来と
共に弱体化し科に於て我が
行はれた新文化の全般化、民主
主義化と共に急激にかけよ仏人
主義、合理主義の学風
に伴って急激に変貌しつゝある
事は見のがす事は出来ぬ。
然しその変化の激甚さはおに
よって色々異ってゐる。現我を
なの農地改革によって芝生し

く影響されたところもあり、それ程でなかったところもある。近年における農業の都市化の進展しかったところもあり、それ程でないところもある。交通機関の発達の多かったところもそれ程そうでないところもあるによって、は異なってくる。

(を知るには)

また二の農家なら何にあるかは元々調べなければならぬ。日本の平均的な調査には、その他以外に以下十戸の集団の各戸について調べれば、その村の社会生活の全般の大体を知ることができる。

右の十戸の内には血縁的集団(村に同族団)に相当構成の根幹を

女性を化それぞれに配し

生産手段における変化は経済生活には大きな変化を伴われとし、家族や婚姻、教育、社交の生活には弦と変化を伴はぬかも知れぬ。その点を明かにするのが実証的に下部構造における変化と上部構造における変化とを実際に於けるそれは同化である。

共産党の方では経済生活の変化の現象形態の仕事である。

教育同化作用の仕事である。

お茶の水女子大学家政学部

社会生活の全体の中で正しく理解

機械の共同利用は共同体的なものか。
大教授の吸収機械もそうか
独立している小家の共同生活の形式というのは、生活様式の
云々の比較的の意味でよりよくなる
方を云うのか例えば引き
有なる。共同生産の形式、共
同体的なら出資は私的な共同体
的であろう。コルホーズは共同体か。
耕地や山林や水の共同よりを共同
体と見るのはおかしい。
封建性は共同体的なものを
が労働な強制を主は農民
を常に最低の生活しかりける。生産
技術の相違ではなく領主的な支配
の性格

評価しつけるものを先
人のあたまを使えるよ。
お落共同体は式よ一生的段階
て村落なかも形式であるから、
二の段階を経過した村落なら
去の生活形式である。り来ては私有
共同体的性格を脱皮した村落
今もそう今脱皮しつつあるところも
ある。それを確認するのは誰です。
高をもとの農業を
して営む中世末の村落は
も早や共同体でなし。

代講の記

三十六年度 集中講義

「村落より都市へ」の見て話す
社会変動について

村家族
村落
D都家族

四つの我々の世界、政治的枠組
家族と口家が最深
村落と都市の利益
(家族学の概念)
結節的機関の存在
政治構造の理論

同日の
発見
アメリカの都市社会学と異なる都市
の印象。
日本人の社会学の発展を、のる

三十六年
十一月十七日
二四〇一四、五〇